

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 南伊勢町	対談項目1 国道260号の整備について	東宮から河内間について	<p>国道260号の全長約108kmのうち、その半分が南伊勢町にあります。町の中を東西に通じる唯一の道路であり、町の産業、生活すべてに関わっています。昨年には錦峠が開通し、今年の3月には木谷工区が全線開通となりました。現在は南島バイパス工区で蟹浦から東宮まで工事を進めていただいております、今年度末までには開通されると聞いています。</p> <p>今回、特に前に進めていただきたいのは、通称三つ坂峠と言われる東宮一河内間です。東宮から最初のトンネルまでは細かいカーブが続いており、また、三つあるトンネルの中は狭く、大型車と普通車でも対向し難く、大型車同士の対向はできない状況です。平成19年に崩落したこともあります。雨が多い地域であり、急峻な法面です。いつ崩落するかわかりません。</p> <p>この区間は全国でもトップ10に入る水揚げを誇る奈屋浦漁港の輸送路になっています。災害があっても、すぐに漁港を復興し、魚を水揚げして様々な地域に供給できるようにしなければなりません。現在、国では神奈川県、和歌山県、そして三重県の奈屋浦漁港の3つの漁港をモデルケースとして、被災時の事業継続計画(水産業BCP)を策定中です。</p> <p>錦峠開通の効果を上げるためにも、大型車同士の対向ができるように、この区間の整備をしていただきたいと思っております。</p> <p>今年から県でもこの区間の検討をしていただけると聞いていますので、知事にその点についてお話をお聞きしたいと思います。</p>
2 南伊勢町	対談項目1 国道260号の整備について	船越工区について	<p>船越地区は改良が遅れていますが、子ども達の通学路と大型車が通るところが一緒になっており、非常に危険な区域です。子ども達の安全のためにも改良をお願いします。</p> <p>海側の方にバイパス工事をしていただけることになり、用地測量や家屋移転などを進めていただいております。</p> <p>ここ数年、急ピッチで何か所も工事を進めていただいております、大変ありがとうございます、この260号は南伊勢町にとって大事な道なので、よろしくお願ひします。</p> <p>船越工区の道路計画の策定にあたっては、南伊勢町とも協議しながら、想定される津波の高さを上回る道路の高さとし、道路法面をコンクリートで被覆するなど地震津波災害に強い構造となるよう計画しています。今年度は、構造物の設計や用地測量を実施する予定です。当工区は、バイパス事業であるため、工事着手にあたっては、全区間の用地取得が必要となります。用地買収等において、町や地元の皆様のご協力が欠かせないので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容	
3 南伊勢町	対談項目2 ポストサミットとしてのナショナルパーク等の好機を活かしたインバウンド対策について	ポストサミットの展開及び市町との連携について	伊勢志摩サミットでは、伊勢市・鳥羽市・志摩市とともに南伊勢町も区域に入れていただきましたが、南伊勢町は首脳や配偶者の方々が直接来ていただくような施設はなく、その機会もありませんでしたので、3市ほどは華々しい感じはありませんでした。しかし、子ども達がサミット給食で色々な国の給食をいただきながら、その国について学んだり、花いっぱい運動やクリーンアップ作戦など、多くの町民の方々に参加いただくことで、町がひとつになり、町民特に子ども達の将来にとって非常にインパクトが大きいものとなりました。このサミットの成果を次にどう活かしていくかを考える必要があると思っています。 この8月31日から9月3日まで、伊勢市と南伊勢町において大学生国際会議が開催されました。当町では、80名程の大学生達が来て、地場産業とグローバル化をテーマに町内の一次産業の現場体験や産業振興について議論していただきました。地域の方々と学生達がふれあうことができ、すばらしい取組となりました。 今後も県の力でこういった取組を続けていただきたいと思います。サミットの遺産を県としてどのように生かしているかとされているのか、町として一緒にどのようなことができるのか、お聞かせいただきたいと思います。	サミット給食を三重県の中で一番多く実施していただいたのが、南伊勢町です。今回のサミットは、子ども達、次世代の人達にたくさんの方々のチャンスが生まれました。明日すぐにサミットの経験が次世代に生きるというものではありませんが、地域をつくり、県をつくり、国をつくるのは人です。県としてはサミットの後、子ども達に英語を学ぶ環境であったり、国際理解をする環境であったり、大学生サミットで南伊勢町に来てもらったように、皆で議論したり何かをつくり上げていくような環境をたくさんつくっていくというのが、一番大事な柱の一つだと思っています。 もう一つは、サミットで知名度が上がったので、色々な会議を三重県に誘致するなど、いわゆる「サミットの聖地」のようにしたいと思っています。今年11月30日、12月1日には、「農福連携サミット」を全国で初めて三重県で開催し、10月14日、15日には「認知症サミット」を開催します。このように〇〇サミットなど、皆が集う場の代表的な場所に三重県をしていこうと考えています。 今回、食と観光が注目を浴びました。サミットの翌月、6月の宿泊客数の全国平均は前年と比べて-1.2%と減少しましたが、三重県は9.3%増加しました。まだら模様ですが、観光では多くの方に来ていただいています。食の面では、昨日も早速台湾で食の商談会を開きましたが、75件の商談が継続しています。南伊勢町の水産物を売り込んでいくなどして、皆様の仕事を支えていきたいと考えています。
4 南伊勢町	対談項目2 ポストサミットとしてのナショナルパーク等の好機を活かしたインバウンド対策について	伊勢志摩国立公園の整備について	今年には伊勢志摩国立公園指定70周年にあたります。伊勢志摩国立公園の特別地域17,509haのうち、当町の特別地域は5,040haと約3分の1を占めています。国立公園は人があまり住んでいない自然の中にあることが多く、人がたくさん生活しているところはこの伊勢志摩国立公園だけであり、ここには漁村文化が息づいています。特に特別保護地区における半島・島しょ群では唯一当町だけの指定となっており、その価値は高く、これをいかにこれからの観光産業に活かしていくかが大事だと思っています。 今回ナショナルパークに選定されたことから、このすばらしい自然景観と我々が暮らしている生活文化、歴史を活かして、国内・国外から多くの人に来ていただける場所にしたいと思っています。国でもプログラムを組んで、外国からの観光客が増えるように整備をしようと進めていただいています。知事の思い入れも強いと思いますので、お考えをお聞かせしたいと思います。	

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 南伊勢町	対談項目3 児童相談所の体制の充実(児童家庭相談機能の強化)について	<p>南伊勢町の子ども数は、0歳から中学生までで742人です。そのうち要保護児童地域対策協議会で支援対象としている子どもは28人です。すぐに命の危険があるわけではありませんが、虐待、非行、不登校、保護者の病気、育児不安など、複合的な問題がある相談がかなりの件数あります。</p> <p>これらのことに対しては、町民の生活が把握しやすい「町」によるきめ細やかな対応が必要であると考えています。とはいえ、重篤な問題に発展する前の初期段階で対応することが、子どもの将来にとって欠かせないことです。何か問題があったときに、町はすぐに現場へ行ってその場での対応はできますが、そこから将来どのような問題が生じるか、何をしておかないといけないかを把握するには専門的な知識が必要です。</p> <p>しかし、県の児童相談所は相談件数の多さや相談内容の厳しさから見ても、専門の方の数が足りないと感じています。かなり大きい問題に発展してからでないとなかなか対応を依頼し難く、本当に相談したいときに相談ができ難い状況です。</p> <p>南伊勢町は人口13,000人弱のうち、子どもは年間50人前後しか生まれません。その中で一人ひとりの子どもをいかに大切に育てていくか。複合的な問題をひも解いて少しずつ良くしていくためには、専門の方の判断をいただいで、将来どのように進めていくかを考えていきたいと思ひます。すぐに対応するのが難しいことは理解していますが、専門の方をもう少し配置していただけるとありがたいと思ひます。</p>	<p>児童相談所(児童相談センター含む)の職員定数については、平成22年度の92人が今年度は113人と、6年間で21人増員しています。三重県職員で定数が増えているのは、一時的なプロジェクトを除くと、警察と児童相談所だけです。この背景には、平成24年に桑名と四日市で0歳児の乳児がネグレクトにより死亡したことがあります。平成25年度から児童相談所に警察官や弁護士を配置するなど、体制を強化してきました。</p> <p>平成24年のときに、関係機関の連携と一時保護が的確にできなかったため、その後全国で初めて一時保護のアセスメントシートを導入し、人の裁量ではなく、30項目程あるチェック項目のうち3つ該当すれば必ず一時保護するなどして、専門性を高めてきました。</p> <p>今年5月に改正された児童福祉法等は、児童相談所で専門的なことを、市町は一義的な窓口として在宅支援等に行き届くよう取り組んでほしいということを主旨としています。また、児童福祉司を現行より増員して、人口4万人に1人配置しないとけないということで、今より更に増やしていきたいと思ひます。虐待や家族支援は早期発見、早期支援が基本であり、家族が分離してしまつてから再統合することはとても大変です。役割分担を前提としつつも、日頃からしっかり連携して早期発見、早期対応に努めていきたいと思ひます。</p>
6 南伊勢町	対談項目4 南伊勢高校南勢校舎の活性化について	<p>当町では地方創生加速化交付金を活用して、小中高大が連携して「若者定住プロジェクト」の取組を進めています。若者の定着が厳しい南伊勢町では、次世代の子ども達にどう投資して、ふるさとに住んでもっと地域を良くしてもらうかが大切です。小中学校については、「あばばいっ南伊勢」を活用してふるさとの良いところを知ってもらうなど、ふるさと教育をしっかり行い、将来、町外に出てもふるさとを自慢できるようにしていきたいと思ひています。</p> <p>南伊勢高校南勢校舎は、少子化の影響により入学者数が少ない状況が続いており、地元の方々も心配して学校づくりに協力していただいています。就職の面でも、進学の中でも町としてできる限りの支援をしており、SBP(ソーシャル・ビジネス・プロジェクト)や吉本興業とのコラボによるふるさと劇団の立ち上げ、県の支援による海外留学など様々な取組を行っています。これらの取組を通じて、子ども達が非常に成長してきており、大勢の中で堂々と自分の意見を言えるようになり、日々の生活がとてつもなく積極的になりました。</p> <p>高校の本分は学力の向上ですが、それだけではなく、人間としての成長力、自分の将来を切り開いていく力を持たせることが大事です。それができる高校をつくっていきたくて思ひます。小規模校で生徒数も少ない学校ですが、今は過渡期であると捉えて、ぜひ温かい目でご支援をお願いしたいと思ひます。</p>	<p>南勢校舎から、昨年度はフィリピンへ短期留學生1名を、今年度はシンガポール・マレーシアへの海外研修旅行に2名を派遣させていただきました。また、ALT1名を今年度から常駐させています。そして、来年度からは「地域創生アドバンスコース」を設置する予定です。地域の皆様が支えていただいている南勢校舎から人材が輩出されていくように、県としても努力していきたいと思ひます。</p> <p>現在、県立高校の活性化計画の策定を進めています。子どもの人口が減少していく中で、一定の人数が学校としては必要であるというのが基本的な認識ですが、地域にとって大事な学校もあり、人口だけでは割り切れない部分もあります。</p> <p>南勢校舎のような小規模校は、そのデメリットを解消しつつ、メリットを活かして、地元市町の皆様と連携して良い形で人材育成ができるように考えて進めています。</p> <p>あわせて、地元からの南勢校舎への進学率を高めていただきたいと思ひます。南勢校舎の今後のあり方等については地元の皆様とよく協議して進めていきたいと思ひています。</p>